

国立天文台・天文情報センター・アーカイブ室 中桐正夫

＊ 国立天文台及び天文学に関係したテレホンカードの収集

アーカイブ室新聞 306号に「テレホンカードの国立天文台に関係したものの収集」(2010年3月31日発行)という記事を書いた。この記事を読んだ2010年3月に定年退職したM女史が、1) 国立天文台野辺山電波ヘリオグラフ完成・宇宙電波観測所10周年記念、2) すばる、3) TAMA Project、4) SUBARU 主鏡セル完成記念、5) 感謝(宮沢敬輔)、6) YOHKOH TEAM、以上写真1、7) 国立天文台・電気通信大学共催技術研究会1996(写真2)の7枚を提供してくれた。



写真1 提供された6枚のテレホンカード

写真1の右上の「すばる」のテレホンカードはアーカイブ室新聞306号ですばるのネ

一ミシング公募当選者に配るために制作したと当時の大型望遠鏡新聞 No. 36 (1991 年 11 月 11 日号) で紹介したものである。

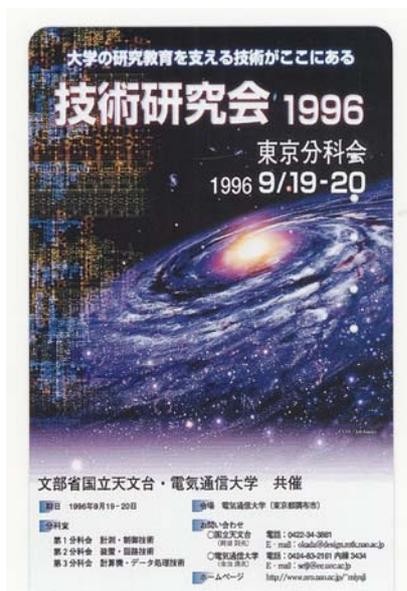


写真 2



写真 3

写真 3 は、この話を聞きつけた日江井名誉教授が、皆既日食時のコロナ写真のテレホンカードがあると提供してくれたものである。明星大学日食観測隊が撮影したものである。

そしてまた、国立天文台アーカイブ室の同僚である中根女史も同じものをもっていると提供してくれたものが写真 4 である。ところが同じものかとよく見ると、太陽の大きさが違う、そしてなんとコロナの流線の様子が違うのである。No. 4 のテレホンカードには、



写真 4

「太陽コロナ 明星学苑日食観測団撮影 (1994 年 11 月 3 日、南米パラグアイにて)」とあった。ここで、写真 3 のカードと写真 4 のカードの大きさも違っていること、材質も違っていることに気がついた。写真 3 のカードはよく見ると「ORANGE CARD 明星大学日食観測団撮影 太陽コロナ」と書かれている。写真 3 はテレホンカードではなく、JR 東日本

のオレンジカードであった。収集の仕分けの名称を変えねばと考えている次第である。  
国立天文台、天文学に関するカード類をお持ちの方の提供を待っています。